

植栽

基本的な考え方

①デザインエレメントとしての植栽

建物周りのオープンスペースの植栽は、あくまでもデザインエレメントとして持ち込むもので、単純にまちに緑量感を与えるためではない。折角確保されたオープンスペースを無作為な植栽によってつまらなくしてしまう場合があり、修景効果に充分配慮する。

②スペースと緑量

植栽は目的とする緑量とスペースの関係が重要で、設計に当たって充分配慮する。

③植栽場所と樹木特性

植栽場所と樹木特性との関係にも充分配慮しておくことが必要であり、生育環境（たとえば日照条件や冠水条件）が劣悪な場合は無理して植栽す

るのではなく、他の修景方法を検討する。

④維持管理の必要性

美しいオープンスペースを保つには、植栽には必ず維持管理が必要で、水やりや整枝、剪定をおこなってはならない。

デザインメニュー

L-1スペースと植栽 (高木あるいは植込地)



周辺の景観に積極的に働きかけるためには高木を用いる。その場合、枝が道路上にのびすぎないように、緑がおさまるスペースが必要で、概ね5m以上の植栽スペースが望まれる。



中央区

L-2スペースと植栽(中木)

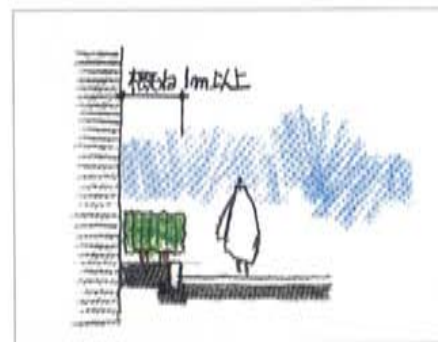


建物の壁面の威圧感をやわらげるためのもので、樹木のもつイメージが重要である。植栽スペースは概ね2m以上が望まれる。



中央区

L-3スペースと植栽(かん木)



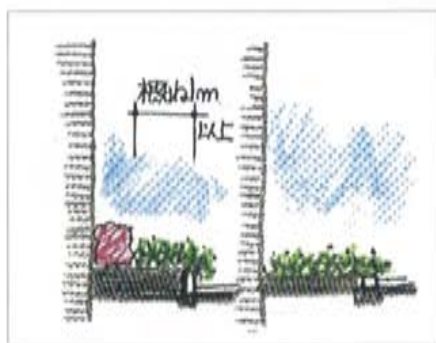
かん木は、刈込み、伸び切り、花、紅葉等、演出効果が高く、狭いスペースの演出には有効である。



中之島

L-4スペースと植栽(地被)

地被は、その特性から構造物を軟らかく見せる効果が高い。特に足元では広がりを感じさせる。



OBP



サンフランシスコ

L-5スペースと植栽(生垣)

生垣は、狭いスペースを立体的に使うのに有効で、単なる遮蔽だけでなく、壁をやわらかく見せる効果がある。



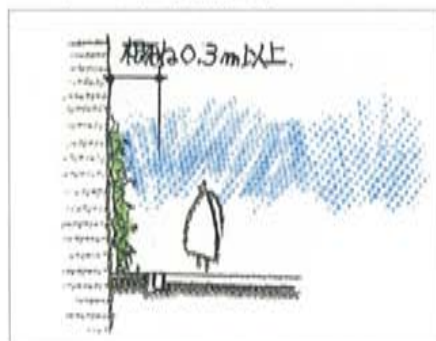
西区



西区

L-6スペースと植栽 (つる性植物等)

つる性植物は植栽スペースが狭くても立体的な緑を演出できる。
エスパリエ*は花物を用いると空間を暖かくする効果がある。



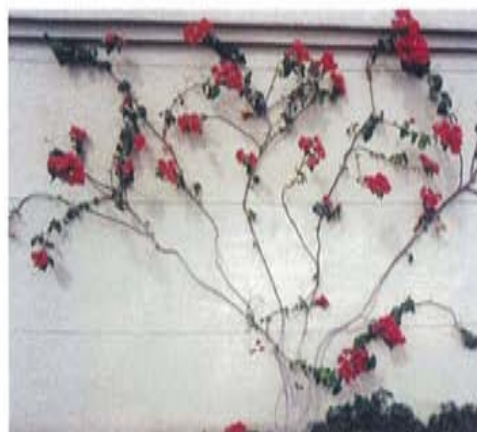
エスパリエ*
壁面にやわらかいアクセントをつけるためトレリスや針金を用いてかん木やつる性植物を誘導してデザインする手法。



中央区

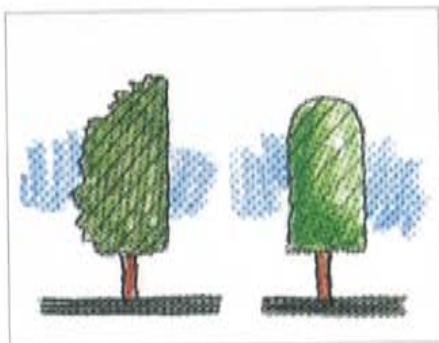


トレド



サンフランシスコ

L-7整形樹形



まちをデザインするとき、自然樹形だけでなく、整形された樹形も有効である。



ヘルシンキ



ボストン

L-8人工地盤上の植栽



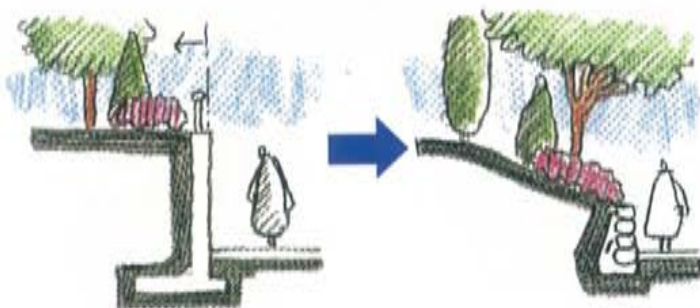
北区



北区

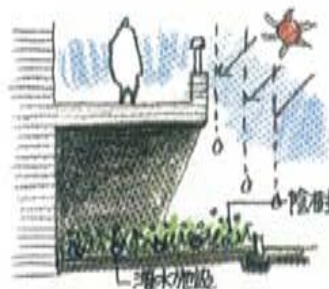
L-9道路空間との親和性

境界部の植栽は、擁壁と一体となって外部の人々を拒絶してしまわないよう、親和性が必要である。



L-10生育環境と樹木特性

光条件に対する樹木特性を充分踏まえて植栽することが、植栽設計において必要である。



舗装

基本的
な
考え方

①デザインへの配慮

オープンスペースの中でデザイン要素として舗装の占める割合が大きいことから、舗装のデザインへの配慮が必要である。

②連続性

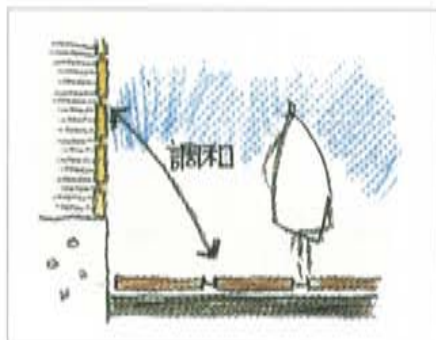
舗装のデザインは、建物のデザインとの調和のほか、接続する道路の舗装との連続性にも配慮する。

③楽しいデザイン

施設の利用目的によっては、人々を楽しみさせるデザインも有効である。

デザインメニュー

M-1建物のデザインとの調和



舗装は、空間の雰囲気を出し出す大きなウェイトを占めることから、建築デザインとの調和が必要である。

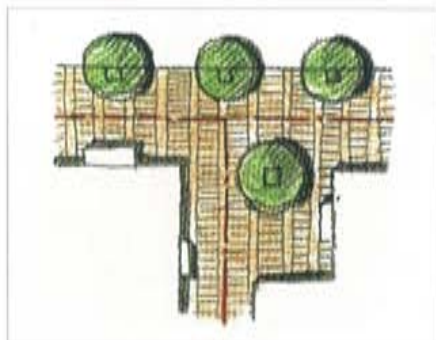


舞州アリーナ



天保山

M-2舗装の連続性



素材やパターンをあわせることで、隣地や前面道路舗装との調和を図る。

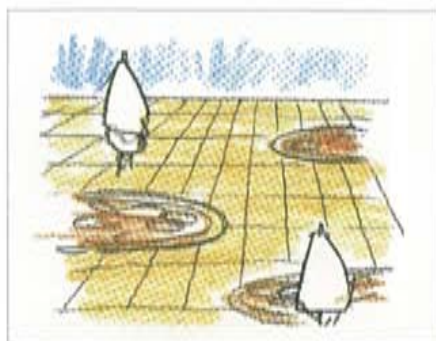


科学館



中央区

M-3楽しい舗装



舗装にアートすることで楽しい空間となる。



バルセロナ



枚方市

屋外造形物

基本的
な
考え方

①設置の必要性

設置の必要性を充分検討する必要がある。

②デザインと配置

設置目的に対応した形態、配置とする必要がある。

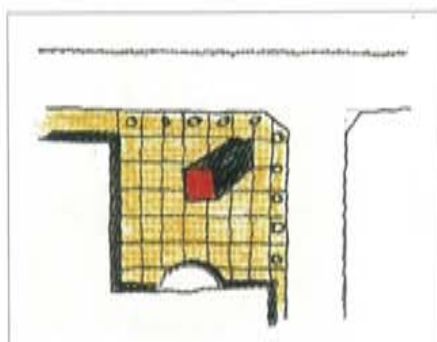
設置目的としては次のようなものが考えられる。

- シンボルとして用いるもの
- モニュメントとして用いるもの
- 空間を楽しくするためのもの

デザインメニュー

N-1シンボル化

広場の中心施設としてシンボル性の高いものを導入する。



総合医療センター



クレオ大阪北

N-2ファニチュア化

ベンチやサインの機能をもたせたり、それらと一体化することにより、身近なものとする。



城東区



大阪プール

N-3楽しい造形物

動く造形物や彫刻などを導入することで、空間を楽しいものとする。



天保山



鞠公園

ストリートファニチュア

基本的
な
考え方

①サイン等

サインは、市民が施設を利用するのに必要で十分な情報を精査した上で、後から付加されることのないようその内容や設置場所を決定する。

サインのデザインは、外部空間のイメージにふさわしいものとし、設置にあたっては、個々バラバラに設けることなく、できるだけサインの統合化や他の工作物との複合化を図る。

②照明

屋外照明は、周辺土地利用に対応して光の広がりや配慮する。

メインエントランス広場の床面照度は概ね1ルクス以上が望ましい。

③車止・ベンチ等

場所性を考慮して設置する。

デザインメニュー

O-1複合化

サインをはじめとする複数のデザイン要素の複合化は、オープンスペースをすっきりとさせる。



長居船技場



天保山

O-2デザインの調和と個性化



ATC

建物との調和を図りながら、個性的なデザインとすることで楽しさを演出する。



ATC

O-3サイン

計画的な配置と建物や空間特性に調和したデザインとする。



ATC



初庭球場

O-4 広報板の統合

広報板の設置位置に留意し、雑多になりがちなデザインを統一し、統合する。



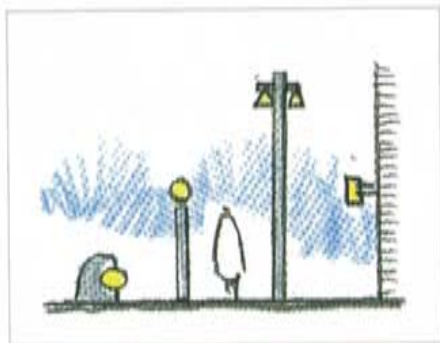
市役所



南港

O-5 照明

照明は単に機能だけでなく、空間デザインの重要な要素として、景観や周辺の雰囲気配慮する。



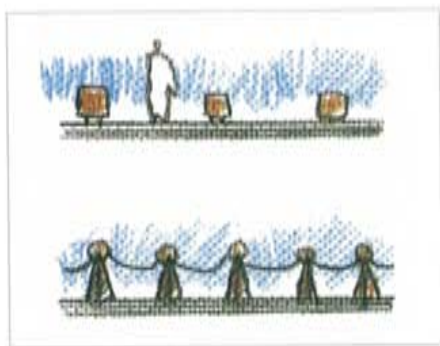
南港



ATC

O-6 車止

機能を重視したもの、雰囲気の演出を重視したものがあり、場所性を踏まえて設置する。



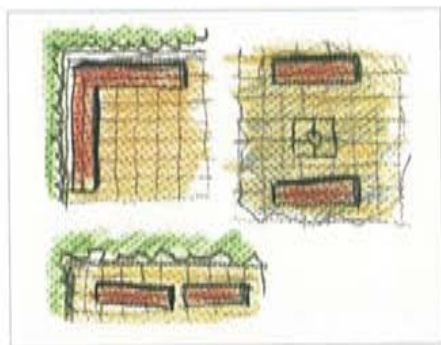
東成区



ストックホルム

O-7 ベンチ

空間の雰囲気に配慮して、デザインや材質・配置を決める。



北区



城東区

P

IV.さまざまなデザイン要素(5)

水

基本的な考え方

水はあまり大きなスペースを必要としないデザイン要素として、まちの雰囲気潤いに与えるため積極的に取り入れる。
建物の目的によっては、空間を楽しくさせる装置として持ち込むことを考慮する。

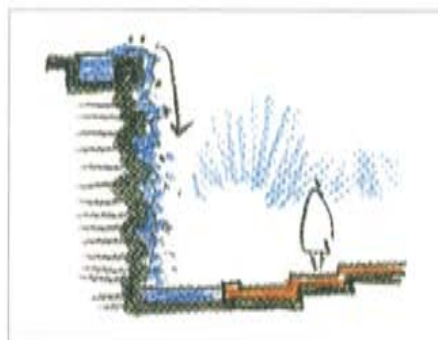


咲くやこの花館

デザインメニュー

P-1動きのある水

動きのある水は、ダイナミックな空間演出効果をもつ。



ニューヨーク



ニューヨーク

P-2モニュメント化

モニュメントと一体となった水は、全体が造形物としての効果をもつ。



ニューヨーク



ハーバード

P-3楽しい水

空間を楽しい雰囲気にする。



コムズガーデン



横浜市

Q

IV.さまざまなデザイン要素(6)

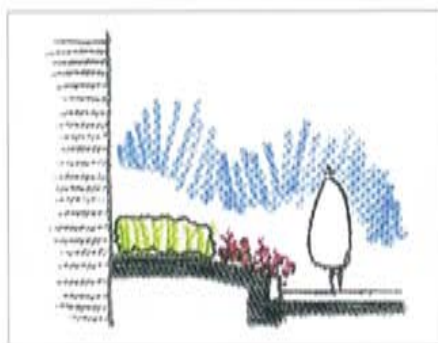
花

基本的な考え方

オープンスペースに華やかさや、彩りを添える重要なデザイン要素である。先導的にまちに花を持ち込むのは公共施設の役割の一つであり、植栽スペースがなくてもプランター等いろいろな持ち込み方があり、その場所にふさわしい形態で積極的に導入することが望ましい。

デザインメニュー

Q-1花壇



色とりどりの花を植えることで華やかで季節感にあふれ、親しみのある景観を生む。

トロント

Q-2プランター

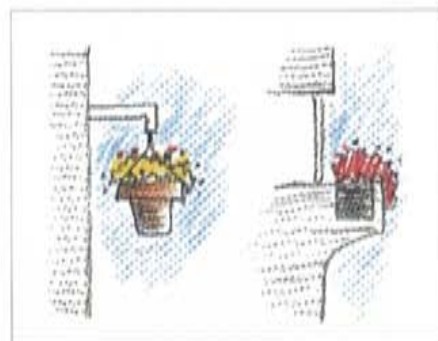


旭区役所



サンフランシスコ

Q-3ハンギング・窓辺



ダイヤモンドモール



中央区



公共建築の外部空間デザインマニュアル

■編集・発行

平成8年6月

大阪市都市整備局

〒530 大阪市北区中之島1-3-20